V307a　X 線分光撮像衛星 XRISM の科学運用に向けての模擬試験

林克洋 (ISAS/JAXA), 田代信, 寺田幸功 (埼大, ISAS/JAXA), 高橋弘充 (広大), 信川正順 (奈良教育大), 水野恒史 (広大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 久保田あや (芝浦工大), 中澤知洋 (名大), 渡辺伸, 飯塚亮, 佐藤理江, 米山友景, 吉田鉄生 (ISAS/JAXA), Chris Baluta(NASA/GSFC), 海老沢研 (ISAS/JAXA), 江口智士 (福岡大), 深澤泰司 (広大), 橋口葵 (奈良女大), 勝田哲 (埼大), 北口貴雄 (理研), 小高裕和 (東大), 大野雅功 (JAXA), 太田直美 (奈良女大), 阪間美南 (埼大), 阪本菜月 (広大), 志達めぐみ (愛大), 塩入匠 (埼大), 丹波翼 (東大), 谷本敦 (鹿大), 寺島雄一 (愛大), 坪井陽子 (中央大), 内田和海 (ISAS/JAXA), 内田悠介 (東理大), 内山秀樹 (静大), 山田智史 (理研), 山内茂雄 (奈良女大)

X 線分光撮像衛星 XRISM プロジェクト科学運用準備チームは、2023 年度打ち上げ後の衛星運用に向けて、科学運用における周到な準備を行なっている。その作業は、観測提案システムの構築、観測計画プロセスの樹立、観測後の衛星テレメトリデータの FITS 形式への変換やアーカイブ処理、それを用いた検出器の健全性確認のためのシステム構築、軌道上較正計画の策定など、非常に多岐に渡る。2022 年 11 月に、およそ 2 週間の日程で、運用業者と共に、これまで開発してきた地上運用システムと、公募観測前の初期科学観測期のターゲット天体や、衛星熱真空試験の取得データを用いて、運用模擬試験を行った。定常運用時に想定される時間制限のもと、複数のパターンの観測スケジュールを立て、実施する運用のコマンドの作成とそのチェックといった衛星運用に望むまでのプロセスを模擬し、観測データ取得後の作業についても、テレメトリデータのモニタや即時データ処理/高次データ処理を実施し、NASA/GSFC の Science Data Center との通信確認も行った。本講演では、実施した試験のうち、主に科学運用に関する内容について、結果の詳細と今後の課題を報告する。